

2. 女性過活動膀胱の諸症状に対する牛車腎気丸の安全性、有用性とアドヒアランスとの関連性について

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 腎泌尿器科学¹⁾
中津第一病院 泌尿器科²⁾
○梶原 充^{1) 2)}、牟田口 和昭²⁾、北野 弘之²⁾
松原 昭郎¹⁾

【目的】牛車腎気丸の過活動膀胱 (OAB) に対する有用性の報告は散見されるが、適応、効果については一定の見解がない。今回、女性 OAB に対する安全性、有用性を西洋医学的アプローチで評価し、効果と治療継続率との関連性を検討した。

【対象および方法】対象は、下部尿路症状 (LUTS) を主訴に受診し、OAB と診断され、牛車腎気丸を投与された女性 52 例。選択基準は、IPSS \geq 8、QOL Index \geq 2 とし、除外基準は、残尿 \geq 100ml、神経因性膀胱、尿路感染症、尿路悪性腫瘍、妊婦、骨盤内放射線療法後とした。牛車腎気丸 (7.5g/日) を証に関わらず 8 週間投与し、LUTS、QOL をプロスペクティブに評価した。評価項目は、尿意切迫感の程度・頻度、排尿回数、IPSS、QOL Index、残尿量とし、Wet OAB には ICIQ-SF を追加した。また、治療継続期間についてレトロスペクティブに評価し、有用性との関連性を検討した。

【結果】44 例が評価可能で、平均年齢 68 歳であった。結果は、著効 7%、有効 18%、やや有効 27%、不変 41%、悪化 7% であった。治療後、尿意切迫感は有意に改善し、昼間排尿回数は減少したが、夜間頻尿は変化なかった。Dry、Wet OAB 群では、やや有効以上が各々 68、25% で、有意差を認めた。残尿量は変化なかった。有害事象は 4 例で、全例軽度であった。治療期間は平均 192 日で、投与 3、6、12 カ月後の継続例は 36、18、9% であった。効果と治療期間との関連性は、3、6、12 カ月の継続例中開始 8 週後での有効例の割合は 65、63、100% で、治療開始 8 週後での有効例は長期間治療を継続している傾向を認めた。

【結論】女性 OAB を対象にした牛車腎気丸治療は、半数以上に有効で、特に Dry OAB に対して安全で有用なオプションになると推測される。また、効果がアドヒアランスと関連することから、今後、患者や OAB 症状のデータマイニングを構築し、安全性、効果、アドヒアランスとの関連性を見出すことが、「証」のみにとらわれない OAB 治療の実践につながると考える。